

日々の支援活動に結びつく 解説と実践例で スタッフのレベルアップに



詳解

地域子育て支援拠点 ガイドラインの手引

子ども家庭福祉の制度・実践をふまえて

渡辺頭一郎・橋本真紀 編著

NPO 子育てひろば全国連絡協議会 編集

B5判・並製・157頁

本体2000円+税

中央法規出版

TEL 03-3379-3861

<http://www.chuohoki.co.jp/>

平成七年にエンゼルプランが出された際、保育園での子育て支援を求められ、全国の限られた園ですが、在宅で育児する母親への支援がはじまりました。そして、育児不安が広がっていく中で子どもが育ちにくい、子育てしにくい環境に目が向けられるようになり、NPOや子育ての当事者である母親等が子育てひろば事業として子育て支援に取り組みようになり、平成十九年には子育て支援拠点事業として、センター型、ひろば型、児童館型の三つの事業が展開されています。

しかし、子育て支援事業は広がってきたものの、実践の歴史が浅いうえに、子育て支援事業は少子化対策として生まれた経緯もあり、子どもや子育ての現状を掌握し、子育て支援のあり方や考え、支援活動の実践を積み重ね、そこから指針をつくりだす作業があまりされずにきました。そこで、支援のガイドラインをつくらねばと、平成十七年にひろば型事業に携わる人たちが中心になって研究グループを発足し、利用者ニーズやひろばの現況などを聞き取り調査しました。その結果をもと

に子育ての状況と課題を把握するなどして、「子育て支援拠点ガイドライン」が平成二十一年に発表されました。

今回、そのガイドラインを作成した人たちが中心となって、ガイドラインを解説した本書ができました。これは子育て支援の指標となり、保育園での子育て支援にも参考になると思います。

第一章では子育て支援制度の変遷と内容、課題が示され、第二章では子育て支援における基本的視点、子ども、社会の視点から子育て支援の機能

とは何かが述べられています。第三章では地域子育て支援拠点とは何かの解説の後、香川県「わはは・ひろば坂出」、新潟県「上越市こどもセンター」、埼玉県「栄保育園るーえん」、京都市「住吉児童館地域子育て支援ステーション」等の優れた実践例が紹介されています。ひろば型が中心でセンター型の事例がないのは残念ですが、現在の子ども、子育ての状況がよくわかるとともに、市民感覚がいきな創造性豊かな活動は、保育園の子育て支援活動にも充分に参考になります。

第四章ではガイドラインの解説が逐

条的になされ、①地域子育て支援拠点とは何か、支援センターの目的、事業の指針、②支援者の役割、③子どもの遊びと環境づくり（子育て支援の特質に合わせた受け入れ体制）等が述べられていて、保育園で子育て支援を実施するうえでの子育て支援の実践の指針となり、保育者にとっては子どもの指針となり、保護者にとっては子どもの関係性のあり方などを学ぶことができると思います。

現在、都市化された社会の中で各家庭は孤立し、人のつながりが薄れ、支える人も少なくなり、密室の中で子育てしている状況になっています。こうした地域の子育ての現状にも目を向け、保育園も子育て支援に取り組んでいきたいと思えます。しかし、園独自の支援事業に取り組むのがむずかしい場合は、園庭の開放、相談等を実施しながら、地域の中で「ひろば型」の子育て拠点事業に取り組むセンターやグループと連携して、子育て支援に前向きに取り組んでいきたいと思えます。

（新澤誠治／子育てひろば推進センター「みずべの会」代表）